

## 発 言 通 告 書

発言者氏名	井坂 直
発言の会議	令和6年 8月29日 本会議
発言の種類	質 疑、 <u>一般質問</u> 、緊急質問、討 論、その他
質疑等の方式	一 括、 <u>一問一答</u>
答弁を求める者	市 長、教育長

### 【件名及び発言の要旨】

#### Ⅰ 公園水泳プールの在り方について

- (1) 長井の富浦公園水泳プールと湘南鷹取5丁目第2公園水泳プールが今年8月までの営業をもって廃止される予定だが、現時点で代替プールはどこになるのか。また、地域の関係団体からの理解は得られているのか。
- (2) 廃止ありきで進めた結果、代替プールをどこにするのか、学校水泳授業をどこでどのように行うのか、地域との合意形成など、調整に時間を要すると思うが、まずは地域の関係団体等との協議を丁寧に行っていくことが重要ではないか。
- (3) 公園水泳プールが市民から愛されて大変身近な存在であることは、これまでの利用者アンケートからも明らかである。温水プール施設とは異なる役割があるのではないかと考えるが、これからの公園水泳プールの在り方について市長のお考えを伺う。
- (4) 以前は9月上旬まで営業を行っていたが、今年度より8月31日までとなった。近年の猛暑を考慮して営業期間を延長することを検討してはいかがか。

## 2 放課後児童クラブへの夏季支援について

- (1) 横浜市は今年の夏休みから、学童保育などへの昼食提供をモデル事業として行っている。八王子市は小学校の給食調理室を活用して学童保育へ昼食提供を行っている。本市も夏季休業中の子どもの健康維持増進及び保護者の負担軽減を図る観点から、昼食提供の実施について検討を行ってはいかがか。

## 3 学校施設の断熱改修について

- (1) 本市の教育現場では4月から熱中症予防ガイドラインを作成し、教育環境の整備に当たっていると思われる。連日厳しい暑さが続く中で新たな対応を求められることもあったのではないかと考えるが、実際にどのような対応を行ったのか、教育長に伺う。
- (2) 校舎などの断熱改修は多額の初期費用や長期の工事期間による教育への影響など、いくつかの課題もある。快適な学習環境を確保するため、優先順位を設けて計画的に学校施設の断熱改修を進める必要性について、市長、教育長それぞれの立場からお考えを伺う。

## 4 平地の確保について

- (1) 活用予定のない未利用地を売却する前に、半島という本市の地形に鑑み、平地の確保について検討する必要があるのではないか。
- (2) 国土交通省は増加する個人所有の空き地の荒廃を防ぐため、新たな制度を創設し、来年の通常国会で関連法案の提出を目指す予定である。また、住宅地の空き地活用の支援に関連する経費を来年度の予算概算要求に盛り込む方針であるとの報道があった。これら国の動向をチェックし、まちづくりにおいて、個人所有の空き地を有効活用しつつ、市有地においても有効に活用していく観点を持つことについて、市長のお考えを伺う。

## 5 気候危機への対策及び環境保全協定について

- (1) 今年の記録的な暑さにより、市民生活や市内の経済活動にどのような影響があったと市長はお考えか。
- (2) 日本に住む 16 人の若者たちが日本の主な火力発電事業者 10 社に対し、少なくとも IPCC が示す水準まで CO<sub>2</sub> の排出を削減することを求める訴訟を起こした。この訴訟を通して、気候変動対策の重要性・緊急性が広く日本社会に共有され、理解と共感が広がることも目指していると聞く。これからの時代を生きていく若い方々の行動について、市長の率直な御所見を伺う。
- (3) 横須賀市と J E R A パワー横須賀合同会社は、横須賀火力発電所に関し、地域住民の健康の保護並びに生活環境及び自然環境の保全を図ることを目的として、協定を締結している。環境管理結果報告書を事業者としてホームページで公表しているが、測定結果のみであり、説明やコメントなどが記載されておらず、不明瞭な印象を受け、これでは環境保全対策が適切なのか判断が困難である。石炭をどのくらい使用したのか、発電量はどのくらいだったのか、CO<sub>2</sub> 排出量はどのくらい低減に努めたのか等を報告することは、事業者の責務と言える。協定の基本理念に基づき、環境保全に努める一環として情報提供の在り方について改善していただきたいが、市長のお考えを伺う。
- (4) ゼロカーボン政策をさらに進めていくため、現在、都市戦略課の中に設置しているゼロカーボン推進担当課をゼロカーボン推進課として単独設置してはいかがか。